

国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター —地域から、日本、そして世界へ—

岡野隆宏

日本の最南端、八重山諸島の石垣島にある国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターは、日本有数のサンゴ礁生態系を有する石西礁湖に面して建っている。

当センターは、サンゴ礁保全のための包括的国際プログラム、国際サンゴ礁イニシアティブ (ICRI) の主要な活動の1つ、地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク (GCRMN) のわが国、そして東アジアの拠点としての役割を果たすことを目的に2000年5月に設立された。

当センターの主な業務は、サンゴ礁に関する情報の収集・整理・提供、サンゴ礁に関する文献や関係機関・団体等についての情報のデータベースの作成他、各種モニタリング調査結果の情報をインターネットを通じて発信することなどで、より広い情報提供に努めている。

もうひとつの主要な業務がサンゴ礁のモニタリング調査である。環境省は1998年から石西礁湖と石垣島周辺海域においてスポットチェック法によるサンゴ礁モニタリング調査を実施し、サンゴの被度、生育型、シルトの堆積状況等の基礎データの収集を行っているが、これに加え、研究者レベル、市民レベ

ルのモニタリング調査の推進・支援をしている。

サンゴ礁の保全は1人でも多くの方がサンゴ礁の重要性を理解することから始まる。このため、当センターではサンゴ礁の価値や重要性、保全の必要性を訴えるための特別展示などを行うとともに、西表国立公園をはじめとする各フィールドを利用した自然ふれあい活動、講演会やセミナーなどを実施している。また、地域の学校と連携し、子どもパークレンジャー事業や総合学習のお手伝いをしている。

当センターには、実験室・標本庫・資料室があり、野外でのモニタリング調査などの調査研究のための器材を整備しており、研究者等の利用が可能となっている。また、サンゴ礁に関する会議や、特別展示、講演会などを行うことができるよう、多目的に使うことができるレクチャー室が併設されている。

現状では、八重山地域及び日本においても、モニタリングネットワークの構築は緒に就いたばかりであり、当センターに期待される場所は大きい。今後、モニタリングサイト1000の実施や国際協力の推進により、日本の、そして東アジアのサンゴ礁モニタリングネットワークの拠点として役割を果たせるよう努力していきたい。



写真1 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター



写真2 モニタリングセンター付近の海辺で行う環境教育プログラム